

### 下川原焼土人形 鳩笛

青森県 弘前市

下川原焼は日用雑器をつくる津軽藩の御用窯でした。当時の藩主が津軽の地に玩具が少ないことを憂い、冬期の閑暇を利用して土人形をつくることを命じました。以来約200年間、鳩笛や干支笛などさまざまな人形が作られており、津軽を代表する縁起物として人々から親しまれています。



阿保 正志  
〒986-8083 青森県弘前市大字新里字上樋田 83-2  
TEL. 0172-27-2366

### 六原張子 起き上がり小法師 狐

岩手県 胆振郡

張子は通常木型などの外側に和紙を貼って作成しますが、六原張子は同型の型に成島（なるし）和紙を丹念に張り付ける「内張り」という技法でつくられます。起き上がり小法師の狐は、震災の苦しみから起き上がれるように、との願いがこめてつくられています。

きむら人工窯  
〒929-4001 岩手県胆振郡大森町六原東町 38-36  
TEL. 0197-43-2397



### 干支張子 申

岩手県 花巻市

宮沢賢治の生誕地としても知られる岩手県花巻市。豊かな文化を育み、古くからの伝統が息づくこの地では郷土玩具も数多くつくり続けられています。節句や年中行事に合わせて、人々は様々な顔の張子人形を飾ってきました。新年を迎える準備として、その年の守り神である干支の人形を飾ることで一年間家を守ってくれるといわれています。

小田民芸店  
〒962-0048 岩手県花巻市村木町 18-20  
TEL. 0198-21-8586



### 仙台張子 申

宮城県 仙台市

仙台では毎年、和紙の柔らかな表情を活かしたかわいらしい首振りの干支人形がつくられ親しまれています。十二支は古代中国で時を表す単位として用いられており、文字の読めない庶民にも理解できるような動物の名をあてはめたといわれ、現代にも息づく信仰の対象となっています。

高柳はら工房  
〒980-0001 宮城県仙台市青葉区中江2-8-5  
TEL. 022-222-9688



### 堤人形 鯉ふみ招き猫

宮城県 仙台市

堤人形は伊達政宗公の時代に藩内の産業発展のため始まりました。現在でも当時の形を継いでつくられており、千歳百福のぼる土俵の一部は、仙台市の有形文化財に指定されています。右手で鯉を押さえる招き猫は、地震を収める、とう願いが込められています。

つつみのおひなごや  
〒981-0912 宮城県仙台市青葉区堤町2-10-18  
TEL. 022-233-4809



### 三春張子 福招きさる

福島県 郡山市

三春で張子人形がつけられ始めたのは、一説によると三百数十年前。京都の伏見人形が三春地方に伝わり、高柴村の人々がそれを真似、副業として張子人形をつくり始めました。今でも「高柴デコ福敷」と呼ばれる集落で様々な郷土玩具が作られています。右手で福を招く干支の福招きさるです。

産物民芸有限会社  
〒963-0902 福島県郡山市西田町高柴字野野 80-1  
TEL. 024-972-2112



### 中湯川人形 来らんしよ猿

福島県 会津若松市

会津若松市の山中でつくられる中湯川人形は、数多くの型があり、それぞれ個性的な表情を楽しむことができる土人形です。「こらんしよ」とは当地の言葉で「どうぞ、こちらにお出でください」という意味。三つ指をつけて福を歓迎する、招福の干支人形です。

工屋 千穂  
〒962-0815 福島県会津若松市東中町中湯川 256  
TEL. 0242-28-1640



### 弥治郎こけし 福島県いわき市

こけしは昔、木地師が子どもに与えた玩具が転じて、次第に彌治郎のお土産ものとして東北地方で盛んにつくられるようになりました。伝統こけしには現在十一の系統があり、弥治郎こけしは宮城県の弥治郎地区で誕生しました。頭のパレー帽のよなるくる模様の特長で、少女の愛らしい表情が見る人の心を和ませます。

木地島さくら  
〒970-0022 福島県いわき市石川町字藤野町内 92-3  
TEL. 0246-22-0286



### 白河だるま 福島県白河市

300年ほど前からつくられている白河だるまは、眉は黒、ひげは金、顔のびんひげは松と梅、あごひげは竹を表す、大衆縁起のよいだるまです。願いを込めて向かって右側の目に目玉を入れると必ず成就するといわれています。

白河だるま産地本部 義立だるま店  
〒960-0007 福島県白河市御前 38  
TEL. 0248-23-3978



### 高松張子 宝珠申

香川県 高松市

宝珠を持つ縁起の良い干支の張子です。高松市内には江戸時代から玩具や人形をつくる店が多くあります。張子の人形は子どもの遊び道具や、子どもの病気の身代りや除魔除けとして用いられてきました。

張子工房ウライ  
〒761-8812 香川県高松市香西本町 33-7  
TEL. 087-482-0387



### 宇和島一刀彫 ブーヤレ

愛媛県 宇和島市

毎年7月に宇和島で行われるお祭りである舞踊のブーヤレに登場するのが全長5-6mもある牛鬼です。子どもたちが吹き鳴らすブーヤレと鳴る竹がワウの音からブーヤレと呼ばれる親しまれ、町を練り歩き、悪魔払いをします。この木彫りのブーヤレも厄除けのお土産物として親しまれています。

株式会社 宇和島名産研究所  
〒798-0034 愛媛県宇和島市藤町 9-3  
TEL. 0895-22-2718



### 張子 鹿踊り

愛媛県 宇和島市

この張子のモデルになっているのが、宇和島地方に古くから伝わるハツ鹿踊りです。少年たちが鹿の頭の面をかぶり、そこから垂れた布で体を覆って太鼓を胸に抱え、打ちながら踊ります。毎年10月29日に行われる宇和津彦神社の伝統的な祭り物です。

上しを民芸店  
〒798-0038 愛媛県宇和島市天神町 8-21  
TEL. 0895-21-6512



### 大谷焼 たぬき

徳島県 鳴門市

徳島県の鳴門市にある大谷焼は江戸時代から続いており、食器や雑物、花器などがつくり続けられています。阿波狸合戦でも有名な、たぬきがモチーフになっていて、振るとカラカラと鳴り、おかかの大鼓をたたいているように感じられます。

大谷焼 陶業会館 梅里窯  
〒778-0002 徳島県鳴門市大津町大谷字道の1-30-1  
TEL. 088-689-0948



### 木彫り 鯨車

高知県 高知市

古くから捕鯨が盛んだった高知県では、お土産として木彫りの鯨車などがつくられてきました。ひとつひとつ丁寧に練り込まれた木彫りです。大きどっしりとした鯨ですが、どこか可愛らしく親しみのある表情をしています。

とぎ民芸店・ちやみギャー  
〒788-0033 高知県高知市南19丁目町 1-15-7  
TEL. 088-482-0171



### 土佐漆喰人形 ごだき申

高知県 高知市

土佐では漆喰がとても身近な存在でした。この漆喰人形も粘土状の漆喰を型に入れてつくり、さらに漆喰などを塗り、漆喰を絞った液に顔料を混ぜたもので着色することで、味わい深い仕上がりになっています。干支でもあるこの申は、子供を抱くという愛情と希望の願いがこめられた人形です。

伊波倉  
〒781-2118 高知県高知市西町 3811  
TEL. 088-892-1043



### 土佐漆喰人形 闘犬

高知県 高知市

高知県の天然記念物にも指定されている、土佐の闘犬をモデルにした漆喰の人形です。横綱の闘犬は化粧まわしに綱を絡めて、貫禄を身にまっています。漆喰の手触りや橋爪、漆喰と顔料を混ぜてできた塗料で着色することで、闘犬の男らしい姿は残しつつも、可愛らしく優しい佇まいをしています。

伊波倉  
〒781-2110 高知県高知市西町 3811  
TEL. 088-892-1043



### 筑前津屋崎人形 モマ笛

福岡県 津屋崎町

福岡県津屋崎町（元福津市）ではふくろうのことを「モマ」といいます。ふくろうは、先をみ通す能力を持つ生き物とされ、「ホウホウ」と優しい音色を奏でるこの土笛は、秋と気遣いが広がることから、かつてはお年寄りや食べ物や戦につまらぬおまじないとして、食卓で吹かれていました。

筑前津屋崎人形工房  
〒811-2384 福岡県津屋崎町津屋崎 3-14-3  
TEL. 0949-52-9169



### きじ車 福岡県 みやま市

開運や縁結び、家庭円満のお守り、玩具として親しまれてきたきじ車は、福岡県みやま市の清水寺の住職が創案し広まったものとされています。赤と緑の色が際立つ特徴的なフォルムです。乾燥させた土を用い、カンナやノコギリで仕上げた丁取につくられます。

伝統工芸品調査士事務所保存会  
〒833-0601 福岡県みやま市清水町小川 5  
みやま市役所西側土蔵裏側  
TEL. 0944-64-1523



### 博多張子 だるま

福岡県 福岡市

江戸中期に博多の商人が大阪へ張子を学びに行ったといわれ、その頃から起き上がり小法師が庶民の中で親しまれてきました。本体には八女の手書き和紙、装飾には金粉などが使われており、とても明るく賑やかな印象のだるまです。

博多工芸  
〒811-1324 福岡県福岡市中央区南区 1-16-4  
TEL. 092-472-6535



### のごみ人形 かえり猿

佐賀県 鹿島市

日本三大稲荷のひとつ、祐徳稲荷神社の参道で売られるのごみ人形は、第二次世界大戦後の世の中を明るくしたいという想いからつくられ始めました。山の神として祀られる猿と、仏の化身である牛を併せ、家運隆盛を祈願します。

のごみ人形工房  
〒849-1314 佐賀県鹿島市大字山道町 1321  
TEL. 0954-43-4380



### 尾崎人形 雀

佐賀県 神埼市

尾崎人形は13世紀末の元寇の役よりこの地に住み始めた蒙古人が、故郷を懐きつづりはじめたと言われているとされています。素朴な人形はテッポウと呼ばれ、水く親しまれています。

高柳 政廣  
〒842-0018 佐賀県神埼市神崎町尾崎 546  
TEL. 0952-53-0091



### 古賀人形 猿ツッキヤンギヤン

長崎県 長崎市

京都の伏見人形、宮城の堤人形と並び、日本三大土人形に数えられる古賀人形の創業は1929年。軽やかな色彩を用い、西洋人や支那人を表した人形も数多くあります。ツッキヤンギヤンは長崎弁で肩書の意味する言葉、仲のよい干支の親子猿の像です。

小川 憲一  
〒851-0103 長崎県長崎市中央町 1533  
TEL. 095-438-3889



### キジ馬

熊本県 人吉市

キジ馬は九州各地でよく見られる鳥居の車の玩具のひとつです。人吉のきじ馬は車の上に「大」の文字が描かれているのが特長で、一説には権ノ権に敗れた平家の一門が人吉遠征先で逃げたため、生活の糧としてきじ馬をつくりはじめ、華やかな暮らしを憧れし、人吉に故郷である京都の大文字焼きを思い「大」の文字を入れたといわれています。

宮原工芸  
〒868-0002 熊本県人吉市中林町 512-2  
TEL. 0966-23-3070



### 彦一こま

熊本県 八代郡

九州の民話「彦一とん話」に登場するタヌキがモデルで、分解すると、笠・頭・胴体・尻尾と土台それぞれがコマとなる遊び心のある縁起物です。タヌキは前売繁盛・開運のお守りとして親しまれていて、郷土あふれる愛らしい人形は、つくり手の心を映し出しているかのように柔らかい表情を醸えています。

彦一こま  
〒869-6602 熊本県八代郡八代町宮原 955-1  
TEL. 0965-42-2306



### 木の葉猿 めしぐさる

熊本県 玉名郡

1300年前、木葉山の赤土で祭器をつくり、残り土を捨てたら猿に化したという伝説から生まれたと伝えられる木の葉猿。魔除け、災難除け、安産、子宝、子孫繁栄の守り神として古くから親しまれています。葉をむかひ指先だけで粘土をむかひむかひにつくられ、葉焼きの上にはぶいた素材な風合いとなっています。

木の葉葉堂元  
〒860-0303 熊本県玉名郡玉葉町木葉 60  
TEL. 0968-85-2002



### 福獅子

大分県 別府市

福家どころとして有名な別府市。かつて6月1日に舞われていた獅子舞は1300年前に大陸より伝わったといわれています。危険除けを祈願する獅子舞の像は元は木彫りで作られていましたが、土人形に姿を替え現在に伝わっています。

佐佐木 隆  
〒872-0212 大分県別府市南1区 1  
TEL. 0975-22-1960



### 佐土原土人形 くじら

宮崎県 宮崎市

佐土原人形は400年ほど前朝鮮から来たいた陶工に習ってつくられたのが始まりと言われています。明治時代初期から大正時代に盛んにつくられるようになり、多くの人に親しまれてきました。今でも昔から残る型を元につくられ、土でできる素朴さやたたら、温かい色調が特長です。

佐土原人形店 ますや  
〒860-0318 宮崎県宮崎市佐土原町上島 1396-18  
TEL. 0985-71-4348



### 久峰うずら車

宮崎県 宮崎市

宮崎市佐土原町では、うずらはコジュケイと呼ばれ親しまれてきた野鳥で、4、5軒に1軒は飼育し、その鳴き声を楽しんでいたそう。身近なうずらを元に縁起物としてたまたまのが久峰うずら車です。タラの木でつくられ、車の輪の部分には細い竹がはめ込まれています。うずらの顔に描かれた「の」の字には子どもたちの幸せを願い込められています。

佐土原町伝統的工芸品保存会  
〒860-0318 宮崎県宮崎市佐土原町東上原町 16251-2  
TEL. 0985-71-4348



### 帖佐人形 猿

鹿児島県 姶良市

帖佐人形の歴史は古く、1597年慶長の役の朝鮮出兵の帰途、島津義弘と共に渡来した陶工が、帖佐村に窯を築いて帖佐焼を始めると共に、人形の製作したのが創始とされています。目に鮮やかな色彩は、いかに縁起がよく、縁の節句や端午の節句など節目の日に縁起物として贈られる風習があります。

帖佐人形窯元  
〒899-5431 鹿児島県姶良市西新町 1372  
TEL. 099-227-7544



### 琉球張子 ウッチリクブサー

沖縄県 那覇市

南国特有の豊かな色彩で彩られた琉球張子は、もともと首里土蔵の子どものためにつくられていたものが、明治以降一般に広がりました。ウッチリクブサー（起き上がり小法師）は、ユッカヌーという旧暦5月4日のお祭りで無病息災を願って子どもに買い与えられたものです。

ロードワークス  
〒960-0013 沖縄県那覇市牧志3-4-2  
TEL. 098-988-4129

